



TIFF

ていふ



Adobe Photoshop から TIFF で保存する画面。

画像圧縮の有無や、圧縮方法が選べる。

印刷用途の場合や互換性を考慮した場合、通常は圧縮しない。

概要

TIFF とは Tagged Image File Format の略で、ビットマップデータのファイルフォーマットの一つです。拡張子は .tif です。

タグというデータの内容を識別するためのコードを用いることで、画像に関する様々な情報をファイルに格納する事ができます。

CMYK、RGB、グレースケール、モノクロ 2 階調（1 ビット）など多くのカラーモードに対応しています。また、非圧縮の画像とすることも、LZW、ZIP、JPEG などの圧縮方法を用いた圧縮画像とすることも可能です。様々な機能に対応できるファイルフォーマットといえるでしょう。

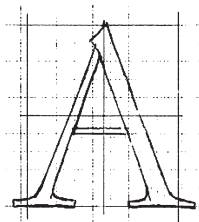
TIFF の読み込みに対応している画像処理ソフトウェアは多く、汎用性の高いファイルフォーマットといえます（反面、拡張性の高さゆえに様々なバリエーションがあり、特に圧縮を利用した場合などには互換性の問題も発生します）。

非圧縮で高解像度の画像を扱うことができ、CMYK のカラーモードに対応しているため、EPS と並び出版印刷用の画像データとして標準的に使われてきたファイルフォーマットです。

TIFF の特長として、モノクロ 2 階調やグレースケールの画像は、他の DTP ソフトウェア（Adobe InDesign や Adobe Illustrator など）に配置した際に色をつけることができます。線画や手書き風のスケッチ、モノクロのロゴなどのビットマップデータに色をつける際にはよく TIFF が利用されます（着色は PSD でも JPEG でもできますが、EPS ではできません）。

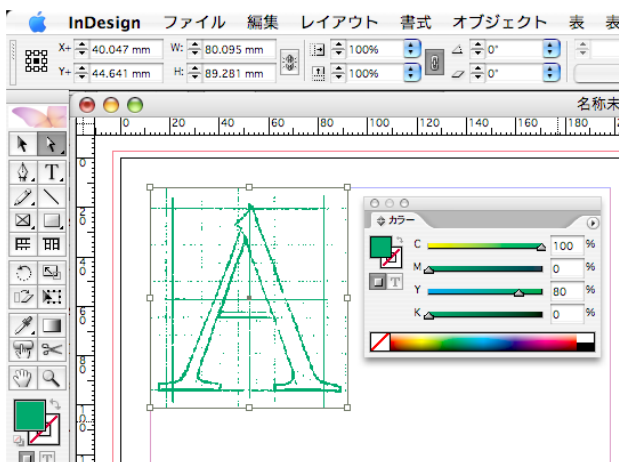
EPS 同様、クリッピングパス（画像の切り抜き）も行えますが、画像を配置するソフトウェアがそれに対応している必要があります（Adobe InDesign は対応していますが、Adobe Illustrator は対応していません）。

同内容の画像であれば、EPS より TIFF の方がデータサイズが小さく出力も速いです。また非ポストスクリプトプリンタからの出力は TIFF を用いた方が良いでしょう。

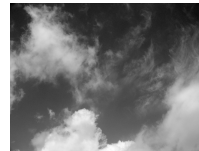


元画像を 1200dpi や 600dpi などの
高解像度でスキャンし、
Adobe Photoshop など
モノクロ 2 階調にし、TIFF で保存をする。

Adobe InDesign や Adobe Illustrator などに
配置した際に、色をつけることができる。

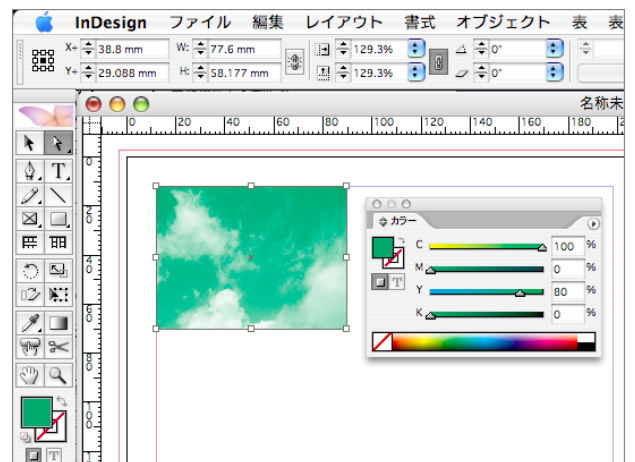


TIFF は、モノクロ 2 階調の画像に DTP ソフトウェア上で
色をつける場合によく利用される。
モノクロ 2 階調の画像は、手書きの図面やスケッチなどを
手間をかけずに線画とするのに有効であり、
TIFF で保存をすれば、DTP ソフトウェア上で着色ができる。

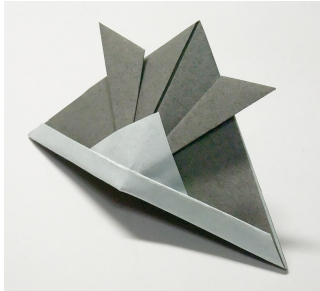


グレースケールの画像を TIFF で保存する。

Adobe InDesign や Adobe Illustrator などに
配置した際に、色をつけることができる。



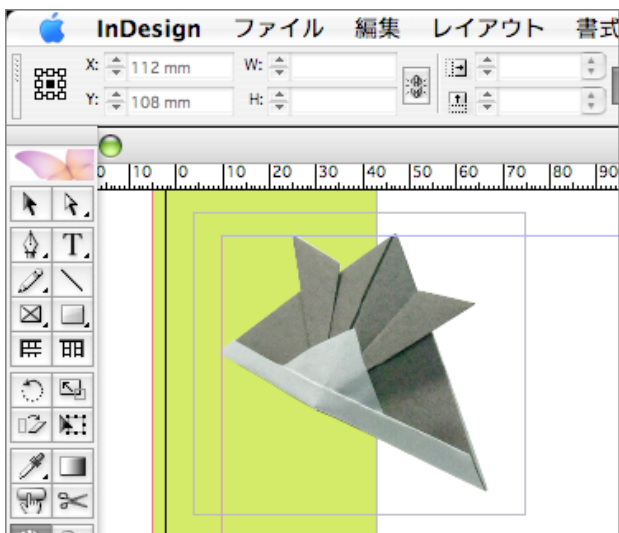
TIFF は、グレースケールの画像に DTP ソフトウェア上で
色をつける場合によく利用される。



Adobe Photoshop など
クリッピングパスを作成し、
TIFF で保存をする。



Adobe InDesign に配置すると、
画像が切り抜かれる。



画像処理ソフトウェアでクリッピングパスを作成すると、
他の DTP ソフトウェア上で、その部分だけが切り抜かれる。
TIFF でもクリッピングパスが可能 (Adobe Illustrator は非対応)。